

コンサートレポート

取手シニアアンサンブル第3回定期演奏会

クラリネットパート 後藤源次郎

令和3年8月1日（日）利根川をはさんで千葉県の対岸に位置する「取手市民会館」において開催された「取手シニアアンサンブル第3回定期演奏会」に参加し、今はその余韻と充実感に浸っています。 思えば、昨年の年明け早々からコロナ感染の影響が聞こえ始め、その後も増減の波を繰り返しながら収束には至らず、当初に予定した定期演奏会も延期を重ね今回、ぎりぎり実現できた演奏会でした。前回の定期演奏会から約3年8か月と長い道のりとなりました。

この間、目標に向かって団員が一丸となり、ひとり一人がコロナ感染防止に努め、持続可能な練習を工夫し、ひとつひとつ積み重ねることができ、難曲にもこころ折れずに挑戦することができました。 定期演奏会が定期ではなかった今回の第3回定期演奏会は、指揮の先生方をはじめ団員や関係者の様々な思いを包み込みながら、ついにこの日を迎え、やり遂げることができました。そして多くの感動をもたらしてくれました。ありがとうございます。

川柳三点。「ダルセニョ セニョマークは どこだっけ」
「休み明け 出来たところが 今できぬ」
「指揮者見ず 楽譜の方に 全集中」



浦和アンサンブルレインボー第19回定期演奏会

浦和アンサンブルレインボー 岡田龍邦



去る8月29日（日）に、昨年から延期になっていた第19回の定期演奏会を開催いたしました。当日はコロナの感染予防のため、三密を避けるため基本的には無観客とし、検温、消毒、換気等、万全の態勢を敷き、岡村理事長も参加して頂き開催されました。

我々の団の楽器の編成は、バイオリン2、オカリナ3、クラリネット1、ギター1（当日欠席）キーボード5、ドラムスという変則的な構成です。プログラム全体は8曲、クラシック3曲、ポピュラー5曲です。まず、先生がステージがある前に、我々団のテーマ曲「ビリーブ」をショートバージョンで演奏してから、先生を迎えました。1曲目は「オー・シャンゼリゼ」で、明るく調子よくスタートしました。2曲目は「ROND」で、少し落ち着きました。3曲目はコマーシャルにも使われた「The Stranger」で、アメリカ気分になって、やっつけました。4曲目は「花が咲く」で、本来は歌の曲ですが、コロナの関係でインストゥルメンタルで演奏しました。5曲目はいよいよ難曲マスカーニの「間奏曲」です。なんとか、かんとかやり終えました。フー。6曲目はミュージカル、キャッツの中の「メモリー」です。踊るように優雅に演奏できたでしょうか？ 7曲目はモーツァルトの「恋とはどんなものかしら」です。新人の女性が力演してくれました。最後8曲目は、華やかに「山口百恵 チャンメドレー」で締めくくりました。

このコロナ禍の最中、会を開催してくれた関係者に感謝します。と共に、いつも厳しく、時にはやさしく指導していただいた「菅先生」にお礼をいいたと思います。また、岡村理事長、遠いところ、暑い中有難うございました。また、これが終わって、練習を再開します。老体にムチ打って、来年の演奏会に向かって、楽しく、がんばらないで行こうと思っています。

シニアアンサンブル千葉県連盟 第2回南ブロック交歓演奏会 開催報告

2021年10月30日（土曜日） 市原市民会館小ホールにおいて、千葉県連南ブロックの5つの団体が2回目の交歓会を持ちました。市原、東金、上総、君津、茂原の5団体です。そうそうたるメンバーが集まりました。それぞれ25分ずつ持ち時間があり、その中にグループの紹介、曲の紹介も含めました。まだお客さまを呼んで行うことは出来ませんので、それぞれの出演者が、他の出演者の聞き手となるわけです。初めて行った時は、まだ4団体で、こじんまりとしていましたが、今回は100名近い出演者ですので、なかなか見ごたえ、聴きごたえがありました。30名弱のグループと20名弱のグループがあり、どうなんだろうと、多少気になっていましたが、大勢の人数のグループは、やはり迫力があり、素晴らしかったですが、なんと私は少人数の良さを感じました。一つ一つの楽器が責任を持ち、堂々としているではないですか。たいへん素敵でした。また今回は弦の人達が特別に5団体総力で「カノン」を演奏しました。合同練習がなかなか出来なかった割には、良かったのではないのでしょうか。上総の藤崎博子先生がピアノで、茂原の横林歩先生がコントラバスで参加し、そして大野悦男先生が指揮棒を振るという、なんと先生方も一堂に会した舞台でした。最後には舞台と客席とで一体となって、全員で「宇宙戦艦ヤマト」を演奏しました。流石に100名近い演奏になると大音量の迫力のある演奏ができ感動しました。 全シ連・岡村斉能理事長と県連顧問の伊藤楽器・伊藤賢二会長も遠い所お越し下さいました。岡村さんには、弦楽合奏と最後の全員合奏をご一緒に演奏していただきました。私は久々に岡村さんと並んで演奏できて懐かしさで一杯になりました。これだけの、大がかりな演奏会を持つ事は、担当をして下さった方々には、さぞ大変なご苦労があったのだと思います。感謝いたします。次回はいつになるのでしょうか！（市原：寺岡哲子記）

